

2学年通信

Dreams come true

山形県立米沢興譲館高等学校

2学年通信 114号 通算 178号

2017. 3. 23 (木) 発行

新3年生へ

朝、クラスに通信を届けに行くのと数名の生徒が椅子に座って黙々と勉強をしている。顔つきを見ると… 皆真剣だ。寝ている者など居るはずもなく（1組以外!?!）、ペンを走らす音だけが聞こえてくる。10年後の自分を想像しながら、今の自分に



できることに精一杯取り組んでいる姿がとても遅しく見え、先生方の思いが伝わっていることを確信する。私が通信を教え始めると、ふと生徒が一言。配りましょうか？その子はわざわざ問題を解くのをやめ手伝ってくれた。なんていい子だ。そして配り終わると、また黙々と問題を解き始めた。興譲の精神が脈々と受け継がれていることがうれしかった。私が担任のクラスでは、今年の目標を『それぞれの東大を目指す!!』に決め、今年一年、受験生の自覚をしっかりと持って取り組むことにした。意識が変われば行動が変わり、成績は学年最下位からトップへ、クラスマッチや様々なタイトルも独占し、教室は賞状やカップで埋め尽くされた。部活でも全員が持っている力を出し切り、興譲館の名を全国に轟かせた。そしていざ受験へ…。やることはやった。あとは自分を信じてやるだけだ。仲間からもらったお守りを握りしめ、いざ受験会場へ、さあ行くぞ！と立ち上がった瞬間に目が覚めた…。なんだ夢か。

夢の続きを見ようと思ったが、それはやめることにした。続きは君たち自身で書き足してほしいと思った。それは好きなように書き足せる何でもありの筋書きだ。君たちは知っている。今この瞬間は過去の積み重ねの結果であることを。今の自分を形作っているのは過去の自分であることを。今の自分は昨日思い描いた自分であり、一カ月、一年前に思い描いた自分であることを。いつも最後に決断してきたのは自分なのである。人の物は良く見えるし、自分よりも優れているものを見ると羨ましく思う。それはごく自然なことだが、そこからどう動くかで人生が変わるような気がする。優秀な人ほど努力を見せない。努力が見えないから自分より出来ると優秀に見える。自分は能力が無い。センスが無い。彼は天才だ。どうせ俺は。少なくとも、自分が羨ましく思う相手ほど自分よりも何倍もの努力をしている。自分はまだまだだなどと思った方が頑張れる。あきらめた瞬間、どうせ俺はと思った瞬間に未来の自分が形成される。あきらめない限り失敗ではないし負けでもない。あきらめない限りそれはある意味成功だし、あきらめない限りそれは経験に変わり次のチャンスを生む。自分のこれまでを振り返ったとき、重なる部分があるように思う。あきらめなかったお陰で新しい縁が生まれたし、挑戦したい気持ちが湧いてきた。興譲館を去るのは寂しいが、山形城北高校で一勝負しようと思う。みんなも何があってもあきらめないで最後の最後まで努力し続けてほしい。きっと明るい未来が待っていると思います。一年間という短い時間でしたがこの学年で最後の興譲館生活を送ることができて最高でした。何気ない幸せをありがとうございました。

あっ、知っている人もいると思いますが、2016.6.6に入籍させていただきました。報告が今になってしまったこと心からお詫び申し上げます。山形市内のスーパーに良く出没するのでこちらにお越しの際はよろしく頼むZ！

2017.3.23 舟越 慎也

2年理数科台湾紀行 エントリーNo.23 T. A さん

研修から大分時間がたってしまったので細かいところが思い出せそうにないのです。なので特に印象に残ったことをいくつか書いてみようと思います。



初めにお見送りに来てくれてとても嬉しかったです。しかも理数科の皆が集まるより先に来てくれていたのでとても驚きました。本当にありがとうございました。

次に台湾の料理についてです。他のみんなもいっていたかもしれませんが、脂っこくて、味付けも日本と大分違ってました。僕はあまり得意な味ではありませんでした。食事をあまり楽しむことができませんでした。そんな僕を

横目に同じ研究班のTYくんは「俺台湾料理いけるわ！」とか訳のわからないことを言いながら相当な量の料理を食べてました。実はTYくんは台湾人でした。

また台湾の高校生との交流では、英語のレベルが高くてすごいなあと思いました。ペアの人がたくさん話しかけてくれました。それを理解してるかは別として英語で相手に意思を伝えることができたのでよかったです。また、制服を着ていたり他の服を着ていたり、授業中に飲み物を飲んだり友達と喋ったりと学校全体がとても自由でした。でも、授業に向かう姿勢はすごく真剣で楽しそうで見習うべきだなと感じました。

自由時間的な時に学校を案内してもらいました。そこで会話が続きかす困ってました。ですが、我らのTYくんは英語でペラペラ喋っていて、素晴らしかったです。やっぱりTYくんはアメリカ人でした。

ホテルの部屋は理数科のおしゃれ番長TYくんと一緒でした。夜は数人で集まりいろいろ語ったりあんなことやこんなことをしました。話は半分コアな部分まで切り込んでしまいここで話すことはできません。ですがひとつだけ言えることがありました。やっぱりTYくんは男の子でした。以上台湾研修レポートでした。



理数科台湾紀行はT A君が最後の投稿となりました。これで理数科23名（実は+1名投稿ありました。ありがとう〇〇〇さん）全員コンプリートです。どうもありがとう。今日の学年会で、その中から最優秀賞（学年部長賞）を表彰します。楽しみにしておいて下さい！と、そのように未提出者を放置するのもひとつの愛の形ではあるけれど、「それでいいんだ」と思いがちな人がいるかもしれない理数科だけに？あえて警告しておきます。「やるべきことはキチンとやりましょう」です。これは私が身を持って学んだ人生の「真の命題」です。アナタ達の気持ちや状況は理解できます。しかし、それを「やらない理由（やれない理由）」としているならば、それは間違った考え方です。今ここで立ち止まって自分を見つめてみて下さい。そんなとき、もう一度スタートラインに戻ることも大切です。なぜ理数科を選んだのか、なぜ米興を志望したのか、なぜ学びの道を歩むと決意したのか etc. 日々の慌ただしい生活では、ふと立ち止まり考えるゆとりもありません。それも真実ではあるのだけれど、それを理由に「流して流されて生きてはいないか」ということを畏れるのです。実はこれは理数科生に限ったことではありません。台湾紀行は1つの例としてあげたのです。

川や海で流されたことのある人ならわかるでしょう。私はアユ釣りをしていた最上川で流されて、もうすぐ日本海！というスリリングな体験をしています。「流される」というのは、自分の意思に関わらない運動であり、つまりは自分の意思の無い状況で生じることなのです。意思の無い行動は、無意味であると同時に、ときに大変危険な行為となることを肝に命じて欲しいのです。日々のニュースもそうですし、歴史を鑑みてもそのような傾向があることを感じるのです。2年生諸君は入学以来、様々な場面で様々な人達から「人生を考える言葉と熱意」を頂いているので大丈夫だと思っただけけれど、老婆心の片隅に掠っていることなので敢えて書いてみた。また、高校生活最後の春休みという大きな節目に諸君がいることもその理由です。1年後に迎える大学入試もそうですが、高校卒業は家族からの「自立のとき」だと私は思うのです。その覚悟はあるでしょうか。このようなことを考えるときには自分を客観的に見ることは有効です。朝のアナタを空中に浮遊して？見てみて下さい。自分で起きていますか。学校に来るまでを見てみて下さい。自分で歩いて来ることができのに家族の送迎に頼っていませんか。学校に来てからを見て下さい。何となく部活動をして話をしてメリハリ無く時間が過ぎていませんか。家でダラダラしているアナタを見かねた両親から「勉強しないの？」と言われ、してもいないのに「しているよ！」と逆切れしていませんか？

少し厳しいことを話したので自己嫌悪に苛まれた人もいるかもしれませんが心配ありません。これらは誰もが辿った道です。しかし、そんな自分から脱却することが必要な時期でもあるのです。いつまでもいると思うな親（と金）です。これから「自分の力でどのように生きていくのか」を考えることが自立の一步です。私はアナタがそのような思考に至れば、大学入試なんて本当に小さなハードルでしか無いと思うのです。何となれば、誰もがそれに人生を賭けるなら最大限の努力をして必死で勝ち取るはずだからです。学びの道で生きていく。それは人生の生き方の一つです。他にもたくさん生き方があります。学びで生きるのが最良最善かはわかりません。しかし、そうでない場合には家族に「私はこれで生きる」と説明し理解して納得してもらおう努力は必要だと思うのです。

ちょっと文章と思考が混濁してきて全削除したい気持ち（理数科のTMの気持ちわかるワ）になってきましたが明日は終業式です。この号出さないと舟越先生の惜別の言葉、ギリギリで送ってくれたT AのT Yの話が日の目を見ないことになってしまいます。こんな焦る気持ちで書いてイイことのないのに最後の最後にドツボに陥ってしまったわ。そう、こんなときは話題を変えるのです（右へ）。

ここで、実は以前書いていた「XIX」が埋もれていたので掲載しようと思う。これも恥ずかしい…。

過去19まで続いたシリーズがあったでしょうか。「ほにゃにゃらI」とか見出しつけておきながら、それっきり忘れ去られた企画数知れず。今さらですが秀逸なタイトルでした。自分を褒めてあげたい。ちなみに、家に帰って書庫を探索したところ「幽☆遊☆白書」が全19巻でした。アニメにもなったので生徒諸君も知っているかもしれませんね。ちなみに、作者は富樫義博さんという人でなんと「山形県出身」の漫画家でした（今初めて知った！）。調べたら、新庄市出身（新庄北高）で山形大学教育学部美術専攻とあるので「私とカブっていたかな？」と思ったら、何と誕生日が1日違いの同期生でした。これも冬物語が紡いだ縁ですね。嬉しくてさらに調べてみたら、次の作品「レベルE」は山形県を舞台にしたものだそうです。漫画「バクマン」でわかるように、少年ジャンプに連載するってことは凄いことですから、もう一度ちゃんと読んでみようと思います。ちなみに、奥さんも漫画家で「美少女戦士セーラームーン」を描いた武内直子さん、弟さんも漫画家だそうです。結構、世の中にいるのですね。漫画家さん。ちなみに、富樫さんは「HUNTER×HUNTER」も漫画も描いていて（これは知っているんじゃない？）コミック累計部数6000万部だそうです。ゲスな興味で印税を計算すると、一冊420円×10%＝約40円、掛ける↑は、ざっと24億円。これだけ稼げる仕事は（合法的には）あまりないですね。公務員や会社員では無理。ここで生徒諸君は奮起してもいい。「将来、大金持ちになってやる！」は全然悪いことじゃない。昔はみんな貧乏だったから、将来の夢は「金持ちになる」なんて誰もが普通に夢描いていたもの。基本、労働の対価としてお金を得ることが「仕事」なのだから、それが多ければ大いに嬉しいよね。だから、将来を考えるとときのキーワードに「お金」は外せないと思うのです。通信でも今まで、金金言って無かったけれど（なぜか、金のお話をすることは少し後ろめたい気持ちになるから）、世の中の争いの半分は金が原因なのでやはり無視はできないのです（後半分の争いの理由はわかるよね？）。ついでなので「お金を儲ける方法」を考えてみよう。多く稼ぐってことは、やっている人が少ないからそうなる。つまり、需要に対して供給が少ないから高く買ってもらえる。もし、私がどうしてもお金が必要になったら（欲しくなったら）実践してみたい仕事はある。マネされると儲けられないので諸君達には内緒だけれど。でも、今はそれよりもエキサイティングで刺激的で充実した日々を「教員という仕事」で過ごすことができるから、私はそのアイデアを実践することはしばらく無いと思う。でももし私が、今の仕事が「もういいや」と感じたならできれば辞めてしまいたい。教員は「無限の可能性を秘めた生徒と対峙する仕事」だから、その可能性に気持ちが応えられないとか、ましてや可能性を潰すようなことになってはいけないと思うから。また、そんな先生になることを目指して頑張っている若者たちが、米興OBも含めて沢山いることを知っているから（XIX以下略）。

（突然XXIIに戻る）やっとなかった。この混濁は先生方の人事異動と無関係ではないこと。舟越先生は残念なのだけれど、新天地の城北でバレーも体育も担任もバリバリやって欲しいから許す。ミスター米興のやっさんは今も複雑な気持ち。やっさんの米興&生徒への愛は（私も含めて）世界中の誰も敵わない。やっさんの代わりににはなれないけれど、やっさんを目指し、やっさんのようになろうと思う（岸校長先生はご退職なのでもうネタにできないし?）。このように私もこの春の間、さらに高みを目指して変わろうと思う。2年生諸君にこの春休みは「自立」をキーワードとした深く濃い思考を求める。そして「しっかりと自分の意思で考えて迷い無く行動できるアナタ」になることを求める。きっとそれを、舟越先生も、岸校長先生も、やっさんも、森めぐみ先生も、高橋正憲先生も、片桐徹也先生も、窪田先生も、事務室の山田部長も、布川先生も、本間精先生もみんなが期待していると思う。期待に応える生き方もある。今日の話を一生の宝モノにして生きる！**終**